

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 協同福祉会	代表者	村城 正	法人・ 事業所 の特徴	お年寄りから子どもまで、みんなが安心して暮らせる地域や町であってほしい。それが私たちの願いです。という目標を持ち、グループホーム・小規模多機能・地域サロン・子ども食堂等を運営しています。
事業所名	あすならホーム柳本	管理者	植田 恵美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	3人	人	人	1人	人	3人	人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	継続して言いやすい雰囲気を作るように努力し、今以上に風通しの良い職場環境を作っていく。継続して利用者本位のケアを行い、利用者さんが満足できるようにしていく。	何でも話しやすい雰囲気になってきている。ケアは利用者さんのことを職員皆で考えて行っている。また、家族さんとも相談しながら取り組んでいる。	良い意見が多かった。	引き続き、風通しの良い職場になるように、職場環境を整えていく。利用者さん本位のケアも継続して行なっていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	地域の声をしっかり聴き、地域に根差した事業所になれるように努力を継続する。誰もが足を運びやすい事業所を目指す。	来客者には、全職員意識して、挨拶するように心がけが出来ている。コロナ禍で感染症対策を行ないながら、安心して来て頂けるように努力をしていた。	良い意見が多かった。分からないとの意見もあった。	感染症対策は万全に行ない、安心して来て頂けるように努力をしていく。地域の方と協力して、地域に根差した事業所を目指していく。
C. 事業所と地域のかかわり	地域の方と今以上の関係を構築して、何でも相談できる雰囲気を作っていく。ランチ・買い物バスの発信を行いホームが集いの場となるように働きかける。	地域の方から相談があり、利用に繋がった利用者さんがおられた。ランチ・買い物バスはコロナ禍で中止する期間が多く、ホームでの集いの場としての役割は出来なかった。	良い意見が多かった。分からないとの意見もあった。	今後も地域の方との信頼関係を構築し、相談には真摯に対応する。感染症予防を行ない、徐々にランチ・買い物バスを再開していく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域行事への参加を継続。情報収集にも取り組み、今以上に様々な地域のイベントに参加する。	コロナ禍で地域の行事も中止になることが多く、イベント等への参加は出来なかった。	分からないとの意見が多くあった。良い意見も多くあった。	コロナの状況を見極めて、地域行事へ積極的に参加する。地域のイベントの情報を収集する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議での職員の取組の発表の継続。家族さんの参加が増えるようにアプローチを行う。	コロナ禍で運営推進会議の開催が出来なかった。レジメ等は市役所・包括・自治会長・民生委員等へ配布した。	運営推進会議自体が開催出来ないこともあり、分からないとの意見が多かった。	コロナの状況を見極めて、開催出来るようになれば、多くの方に参加して頂けるようにアプローチを行なう。
F. 事業所の防災・災害対策	地域の方と一緒に、消防訓練の継続。運営推進会議に地域の消防団の参加・協力を求める。	地域の方との防災訓練はコロナ禍で実施できないが、事業としての防災訓練は年2回実施した。	良い意見が多かった。分からないとの意見もあった。	コロナの状況を見極めて、地域の方と一緒に防災訓練を行なう。